# 集まれば元気 集まれば力

# 大いに交流 四国ブロック交流集会in松山

高知高退協　田中　正(全退教担当)

11月15、16日、松山市で今年度の全退教四国ブロック交流集会が開催されました。一日目は二つの分科会での交流でした。第一分科会は「地域探訪(湯築城・宝厳寺・伊佐爾波神社など)」。愛退教会員でもある川岡勉元愛媛大教授がどっさりの資料を持って現地を案内し丁寧に説明しました。松山城より築城が早い湯築城や道後の歴史を二時間、一緒に歩きながらの説明でした。高知高退協からの参加者の感想です。

☆久しぶりに戦国大名と城づくりのロマンに触れて、ドキドキしたことでした。川岡先生の説明と語りは抜かりなく、私たちの期待を裏切らず、二時間楽しめました。戦国大名の定めとはいえ、豊臣方に自分の子どもたち共々降伏するシーンなど心打たれました。松山城と湯築城の築城の由来に違いはあるにせよ、領主河野一族と湯築城の在りようや関係、それぞれの価値がよく分かりました。知的好奇心を満足させるものでした。今までの松山城や道後に直行から寄り道湯築城コースも良いねと思いました。(田中)

第二分科会は、「退職後をどう生きるか」をテーマに①「地域に根ざして生きる」(農業に関わって、議員として)と②「教育、福祉に関わって」(タダ塾の取り組み、他)の発表を受けての交流でした。以下、参加者の報告と感想です。

☆発表者3人中2人が農業をテーマとしていました。そのなかで愛媛県久万町の方で退職後家業である農業を継ぎ、その後、農業と同時に共産党の町会議員活動もしておられ、その経験も話されました。老後の楽しみとして退職後、農業を趣味的にやることは、農地などの手当さえつけばアマチュア的活動は可能でしょう。しかし、本格的に農民の立場に立つプロ活動を農民の立場から行うには現職時から農業をかなり勉強する必要があります。お二方は、たまたま、ご実家が農業のため、退職後農業を継ぎプロ農民となることができました。

もうひと方は教職経験を生かした「無料塾」活動を披露いただきました。「ただ塾」と言う名の無料塾は、経済格差が学力格差を生む現実を少しでも解消するための「現代版セツルメント運動」だと感じました。現役の経験がそのまま活かせる「子ども食堂」の学力版ともいえる活動です。「放課後居場所作り事業」などで文科省等行政は資金を提供し始めていますが申請の煩雑さ、額の少なさなど、まだまだ、施策として十分とは言い難いようです。しかし、「ただ塾」のような活動で実績を積みあげる、認知度を高める活動はますます必要になると思いました。問題提起が、農業にいささか偏ったためかその後の分散会でも、農業をテーマとした話が多かったようです。

まとめとして、退職後の農業活動も「ただ塾」活動も政治を変えるという視点が必要だと感じました。さらに、今回のテーマは「退職後をどう生きるか」でした。退職後の活動の準備は、教員の場合「ただ塾」のような、ただちに現役時代の経験が生きる活動以外は二刀流で現職時から少しずつでも始めることが大切だと私は考えています。

今回、冒頭、分科会から分散会への場面転換、そしてまとめの報告の間にギターの弾き語りや「うた声」など楽曲の提供がありました。このような技芸は現役教員の時代から腕を磨かなければ、一朝一夕に身につくものではありません。披露された皆さんは二刀流を実践されたのだと思いました。

ともあれ、人生50年の時代に55歳から日本地図を作り始めた伊能忠敬の例を持ち出すまでもなく、思い立ったときがその人にとっては一番若いのです。退職後から始めた活動でも体を壊さない程度の努力で、ある程度の技能を身に着けることができると思います。その視点を忘れず人生を楽しむことこそが重要だと私は考えます。(高橋)

分科会後の入浴(さすが名湯・道後の湯、満喫しました)後は、お待ちかね「夕食交流会」です。山本愛媛県退教会長の開会挨拶&乾杯音頭の後は、それぞれが懇談し、恒例の各退教の出し物、交歓になりました。